

第8回スクリーニング講習会開催報告

神奈川県放射線管理士部会
川崎市立川崎病院 齋藤敦子

主催 横須賀三浦原子力災害特別派遣チーム

共催 (社)神奈川県放射線技師会災害対策委員会、神奈川県放射線管理士部会

日時 2013年1月12日(土)15時~18時

場所 横須賀共済病院5階講堂

プログラム

1部「原子力災害に関わるカウンセリングについて」

「カウンセリングの基礎」 臨床心理士 近藤喜弘(桐蔭横浜大学講師)

「原子力災害の市民に対する心のケアについて考える」

神奈川県放射線管理士部会 吉田篤史(川崎市立多摩病院)

2部「原子力災害に関わる市民からの質問にどう答えるのか?」NASチーム

1 机上訓練

2 グループ発表

3部「セグメント法実践講習」

NASチーム

1 サーベイメータの取り扱い方

2 セグメント法実践演習

今回2度目の参加でしたが、新しい情報が得られる貴重な講習会でした。

第1部ではまず臨床心理士の近藤喜弘さんにご講義頂き、普段の患者さんとのふれあいを例にして頂きながら、基本的なことを教えて頂きました。その中でも、「挨拶は 心を開く 愛の鍵」とのお言葉があり、相談を受ける側と相談する側のお互いが心を開いて打ち解けるためには、まず挨拶が大切だということを学びました。

市民に対する心のケアについては、川崎市立多摩病院の吉田篤史さんにお話頂きました。さまざまな経験のある吉田さんのお話は非常に説得力がありました。東日本大震災のときには、実際に福島県へ行きサーベイをしてこられましたので、その体験談も交えてのはとても興味深く、会場の皆さんも引き込まれていたように思います。一番印象的だったのは、資料として配布して頂いた“原子力災害時における心のケア(被ばく相談)対応マニュアル”の中の「医療機関において診療の際に受ける放射線による被ばくについては、自身の診療が目的であり管理された被ばくであることから、一般に受け入れられている。」という一文についてのお話です。一般市民は診療を受ける際の医療被ばくについては納得しているということが書かれていますが、実際に被ばく相談に来られる方は決して医療被ばくについて納得している方々ばかりではないということで、正しく現状を把握した上で相談及び心のケアが大切だと学びました。

第2部の机上訓練では、受講者でグループ(4人グループが3つ、3人グループが1つ)を作り、市民からの質問を想定したお題が各グループに2題出され、どのように答えればよいかを話し合い、発表するというものでした。お題の具体的な内容は、「国の発表において、直ちに身体への影響はないというが、しばらく経ったら影響が出るのか」や「セシウムが計測されているようだが、外で子供を遊ばせても大丈夫か」、「自分で作った野菜を食べても安全なのか」等、非常に答えるのが難しいものばかりで

した。発表が終わったあとに、回答例が配布されましたが、「これが正解だというものはない」とのことでした。誤解を与えてはいけないし、間違ったことを言ってはいけないし、だからといって必要以上のことを言って不安を煽ってはいけないし、ということで、今回は机上訓練でしたが、実際に市民を目の前にしたときを想像すると非常に難しく、このようなさまざまな質問を想定しての訓練がとても大事であると感じました。

第3部のセグメント法実践講習では、実際にサーベイメーターの使い方を講義頂いたあとに、セグメント法を初めて聞いた受講者を中心に実習を行いました。サーベイメーターの音は消しているので、実際にサーベイをしながら目盛りを見るということが自分も含め皆さん共通して難しい様子でした。3分で行うこのセグメント法ですが、たくさんの方を次々とサーベイするために、1分半法というもので、時間を半分にしてよりスピーディーにサーベイするという方法も試させてもらいました。3分法に慣れてしまって、ゆっくりゆっくりという意識でやっていたところを、倍の速度で行うという試みは、それはそれで難しくはありましたが、この方法を身につけて漏れなくサーベイ出来れば、現地で大人数を前にした際にはとても有用であるように感じられました。

今回の講習会では、ただ単にサーベイメーターの使い方、被ばく相談の仕方を勉強するということだけではなく、被災者を含む市民の心のケアにまで踏み込んだ内容の講義や、また、より現場での実践的なことを考えた1分半法の訓練など、短い時間ではありましたが、非常に盛りだくさんの内容を学ぶことができ、とても充実していたと思います。私自身が主催側に居るという事もありますが、受講したことのない方には是非今後受講して頂きたいと思うのと同時に、私もまた自分なりの新たな発見を求めて、参加を続けて行きたいと強く思いました。